

人に優しい未来創ろう

第二部は「人に優しい未来」に向かっの提言。高齢者や障がい者の福祉、子育てと教育、人権意識などについて質問しました。

介護と子育て

介護と子育ては、お年寄りや子どもたちの笑顔をつくることに加え、女性の過大な負担を軽減する視点も大切で、加えて、ひとり親家庭支援も必要です。この方向性について質問し、知事と共有していることを確認できました。

「訪問介護サービスの職員の皆様が駐車場に困っているの、ハートフル駐車場の利用を許可しては」と提案したところ、「警察署長の許可を得て路上に駐車する制度がある」との答弁でしたので、「制度は皆様知っている。1軒1軒許可を取る現行制度は煩雑で現実的ではない」と再検討を求めました。

「11月開催の手話パフォーマンズ甲子園は、健常者

と聴覚障がい者が同じ条件で競い合う素晴らしい舞台だった」と高く評価し、毎年開催を提案すると、知事も賛成されました。

「保育所待機児童は4月はゼロでも、10月には89人。希望して入所できない数はもつと多い」と質すと、「潜在ニーズを含めて調査した

い」と答弁されました。

「学校司書が法制化されたので、司書の皆様に子どもたちの声をしっかり聴いていただき、学校図書館を子どもたちの主体的な学びの場で

差別意識解消

差別的な行政表現を改め意識改革を目指すポリティカル・コレクトネスの提案に県は賛成しながら人権研修会を1回開いただけでした。「もつと努力すべきで

あり、癒やしの場でもあるフクフク空間にしては」との提言には、中島教育委員長が「大変良い話。司書の研修会などで話したい」と応じていただきました。

は」と質すと、知事は「まだまだ徹底されていないのかも。今後よく点検させていただく」と答弁されましたが、担当局長は「初めて担当者会議を開き意見交換したが、盲・聾・養護学校以外の言葉は上げ

代表質問で県民参画基本条例に関し、「住民投票はセーフティネットであり、伝家の宝刀。発動しない状況を創ることこそ重要では」と知事に質すと、「常に住民の皆様

議会熟議こそが議会の身上

様の御意思に謙虚に向かい合い、真摯に話し合うことが大切。全く同感だ」と答弁されました。

鳥取市議会は昨年末、「現在地で耐震改修」と

の住民投票で示された民意を無視し、庁舎移転案を可決しました。昨年11月に市議選で当選した新顔と元職の計12人には新築移転論、現地改修論を、県外調査や関係者の意見聴取を重ね、担当常任委員会が

の双方から話を聞き、しっかりと考えて判断して欲しかったのですが、新任期が始まって1週間での採決でした。しかも、選挙中の発言と違う投票を

らなかつた」。事業所が障がい者に支払うお金を給与や賃金と言わず、工賃と表すなど事例は多いのに、気付けぬ意識こそが問題です。引き続き、追求していきます

宇沢氏再評価

質問の最後に米子出身で昨年9月亡くなった宇沢弘文先生を取り上げました。宇沢先生は社会的共通資本という概念を中心に据えて、人間の心を大切にすることが経済学を構築すべきと訴え続けられました。「人間の心を大切にすることが進めべきではないか。未来づくりの羅針盤は『優しさ』であるべきだ」と尋ねると、知事は「鳥取県だからこそ、一人一人が大切にされる、そういう幸せを実感できる、みんなで支えあうことができる、そんな社会が実現できるのではないか。そのためにも微力を尽くしたい」と答弁。満足のいく締めくくりとなりました。